

第 22 回甲南英文学会定期総会・研究発表会プログラム

13:30 – 14:20 総会 (2号館 2階 221 教室)

- 議題
- 1 決算の訂正と 2006 年度決算報告
 - 2 2007 年度予算案
 - 3 その他
- 報告
- 1 編集委員会より
 - 2 その他

14:30 – 15:00 個別研究発表

[英語学] (2号館 2階 221 教室)

司会：田中紀男 (天理大学)

「Sluicing における継承体系分析」 根之木 朋貴(甲南大学大学院)

[英米文学] (2号館 2階 223 教室)

司会：和栗了 (京都光華女子大学)

「Billy Budd, Sailor における吃音の象徴性に関する一考察」

上野未央 (園田学園女子大学・非)

15:10 – 16:40 シンポジウム (2号館 2階 221 教室)

「英語英米文学研究と英語教育の実践」 司会：有村兼彬 (甲南大学)

坂井 浄子 (富田林市立藤陽中学校)

田中 基洋 (鳥取城北高校)

東田真輔 (神戸市立向洋中学校)

堀 和也 (岡山市立芳田中学校)

高内由夏 (園田学園高等学校) 原稿代読

16:50–17:50 講演会 (2号館 2階 221 教室)

「ウィリー・レッドモンドと塹壕の夢—アイルランドはいかに第一次大戦を経験したのか」 小関隆氏 (京都大学人文科学研究所准教授)

司会：井野瀬久美恵 (甲南大学)

講演者プロフィール

一橋大学大学院博士課程単位取得退学。東京農工大、津田塾大を経て、2003 年 4 月より現職。専門はイギリス・アイルランド近現代史。『プリムローズ・リーグの時代—一世紀転換期イギリスの保守主義』(岩波書店、2006)、『一八四八年：チャーティズムとアイルランド・ナショナリズム』(未来社、1993) などがある。

18:00～ 懇親会 (生協レストラン)

* なお三省堂、丸善の両書店が書籍販売いたしております。

研究発表要旨

英語学 (2号館 2階 221 教室)

Sluicing における継承体系分析

根之木 朋貴(甲南大学大学院)

1. Sluicing をめぐって

Ross (1969) 以降、sluicing (間接疑問縮約規則) に関して様々な提案がなされてきた。本発表では、主に(2)型の sluicing 文を取り上げる。Merchant (2001) では不適切な WH 移動 (1) は主語条件に抵触し排除されることから(2a)の派生(2b)で、主節の主語は満たされなくてもよい(言い換えると sluicing では EPP を仮定しないと主張している。逆に Lasnik&Park(2003)は、義務的に主節の構造的な要求を満たすものとして EPP を位置づけている。

(1) *[Which Marx brother]_i did she say [a biographer of _{ti}] is going to be published this year?

(2) a. A biographer of one of Marx brother is going to be published

–guess which (Marx brother).

b. [which(Marx brother)]_i[TP is going to be published[a biographer of _{ti}]this year]

これらの分析には、わざわざ EPP を仮定することは極小主義的理論において適切ではなく (Epstein& Seely(2006)参照)、問題がある点を指摘する。

2. 継承体系

本発表では上記の分析はいずれも Chomsky (2005,2006) の体系に基づけば容易に解決できると主張する。

(3) [CP [PP of which car] [C* C(=was)]TP [DP the driver tPP]

[T' T(ϕ)[vP awarded [DP the driver [PP of which car]] a prize]...

(4) I don't know [CP [PP of whom]C[TP[many pictures tPP] weren't displayed [many pictures [of whom] at the exhibit]]]

Chomsky は(3)を提示し時制の探り針要素(C)への ϕ 素性継承が端素性と一致素性を満たす二重の移動の引き金になると主張する。すると sluicing 文(4)では時制 ϕ 素性が C へ継承後、一致素性照合の DP 移動と端素性照合の前置詞移動が同時に適用される。

3. 否定節継承体系

さらに日本語の「も」を取り上げ、否定節における EPP が必要か検証する。

(5) a. Q 何を買ってきたの? A 何も(買わなかった)。

b. [TP [vP 何も買って来 [+neg]] [NegP Neg なか [+neg]った[+neg] [T T]]...

渡辺(2005)は(5)をあげ否定節形成のための EPP を満たす移動がなければ否定の意味が得られない西フランマン語(Haegeman&Zanutini(1997)参照)の事実と異なり日本語否定節には EPP 形成移動の必要性を主張するが、本分析の継承体系を用いれば(5b)で WH 移動同様、素性照合がその場で行われるパラミター値の相違に還元できよう。

英米文学 (2号館 2階 223 教室)

Billy Budd, Sailor における吃音の象徴性に関する一考察

上野未央 (園田学園女子大学)

Nathaniel Hawthorne の短編 “The Birthmark” の Georgiana の頬の痣は、ホーソーン自身が「痣という人間の不完全性を示すあの唯一の象徴」と述べていることから、原罪の象徴と解されている。

Herman Melville は、遺作 Billy Budd, Sailor (1924) の中で、ジョージアナの痣を引き合いに出し、主人公 Billy の吃音について次のように説明している。つまり、ビリーの吃音は、「ホーソーンの小説の一つの美しい婦人」のように「目立つ欠点」ではないが、「突然強烈な感情に取り付かれると」「時として発声上の障害」がおこりがちであり、それは、「エデンの嫉妬深いぶち壊し屋、あの大干渉者」が「なおも多かれ少なかれ関係を持っていることの、著しい例証」である。ビリーの吃音の説明が、このようなキリスト教の文脈の中におかれていることから、ビリーの吃音は、ジョージアナの痣と同様に原罪の象徴と解される。ビリーの吃音が、人間の「不完全性」を示すものであるというのは理解できる。ではなぜ、メルヴィルは吃音を原罪の象徴としたのか。

原罪としての吃音の象徴性の解明は、『ビリー・バッド』読解の重要な手がかりとなると思われる。ビリーの吃音は、情動的な要因によって生じ、その吃音のせいでビリーは身の破滅をまねいている。したがってメルヴィルは、ビリーの衝動を噴出させた深層の領域、すなわち無意識と呼ばれる領域に、原罪の意味合いを持たせていることが考えられる。

本発表では、原罪としての吃音の象徴性を、無意識との関連において考察する。Freud による精神分析学が創始される前の時代を生きたメルヴィルは、無意識をどのような領域として捉え、呈示しているのだろうか。『ビリー・バッド』という作品は、タイトルどおり主人公ビリーをめぐる物語である。ビリーの考察を通して、メルヴィルが無意識に関してどのような認識を持っていたのかを解明したい。